

2019年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495500306	事業の開始年月日	平成27年11月1日
		指定年月日	平成27年11月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語みやまえナーシング		
所在地	(〒216-0034) 川崎市宮前区梶ヶ谷1483-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和2年2月20日	評価結果 市町村受理日	令和2年9月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花物語みやまえナーシングは、東急田園都市線宮崎台駅より徒歩20分。宮前平駅からは、バスで5分程度バス停からは徒歩3分のところにあり、幹線道路から離れた静かな住宅街の中にあります。建物内に看護小規模多機能型居宅介護を併設し、日中は看護師による医療処置が受けられます。そのため、インスリン処置を継続している方なども入居できます。また、看護師による歩行訓練なども行っているため、体力維持や自立度の改善も見られ、安心して生活できる施設です。地域交流の一環として、毎週水曜日には、包括支援センター主催の「せんにち草体操」が行われています。当施設駐車場で行われる、せんにち草体操は地域の方の参加も多く交流の場としても利用されています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年6月28日	評価機関 評価決定日	令和2年7月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は東急田園都市線「宮崎台」駅より徒歩20分、バスを利用する場合は、「宮前平」駅から川崎市営バス「井田営業所方面」行きか、あるいは東急バス「野川台方面」行きバスに乗車(約5分)し、バス停「金山」で下車徒歩3分のところにあります。建物は3階建てで、1階には看護小規模多機能型居宅介護施設(花織みやまえ)が併設されており、事業所は2階と3階部分を使用しています。

<優れている点>
併設されている看護小規模多機能型居宅介護施設には、看護師が日中いることから、事業所は連携を取り合いインシュリン処置などの医療処置も受けられる体制となっており、インシュリン処置を受けている利用者も受け入れることができます。医療面での連携だけでなく、現在事業所に入居している利用者の約3割の人は元1階の施設を利用していた実績があり、日常活動の中でも利用者との交流も含め良好な補完関係を築いています。

<工夫点>
地域包括支援センターと協力して事業所内駐車場スペースを使い、週1回「せんにち草体操」を開催し、利用者に加え、近隣住民約20名の方が参加しています。体操終了後、参加者は事業所が用意した湯茶を飲みながら楽しそうに歓談するひと時を過ごし、大切な地域との交流の場となっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語みやまえナーシング
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を施設各所に張り出し職員が共通理念に基づいて安心して暮らせるようきめ細かな支援に努めています。	「利用者一人ひとりの今日のペースはいかがか見極め、いつもと同じではなく、いつもと違う点はないかを見落とさず、利用者のペースに合った支援」を基本としています。職員は社内研修や先輩職員によるOJTを丁寧に行い、事業所の理念の実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の団結力の強い地域です。様々な行事に参加しています。また、包括支援センター主催で毎週水曜日『せんにち草体操』が行われ、地域の民生委員さんや住民も多数参加しています。	毎年近隣の神社へ初詣に行き、地域の人と顔合わせをしたり、地域の福祉行事、祭りなどの行事にも参加しています。地域包括支援センターで毎週行う「せんにち草体操」は利用者の健康維持の目的だけでなく、近隣住民との地域交流の場となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の行事に参加するとともに、施設イベントへの参加も増え認知症の方との自然な触れ合いの場ができています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、地域との関わり方や地域で行っている行事、会議など多岐にわたり、ご意見を頂戴し参考にしています。地域包括支援センターの行事などに声をかけて頂いて参加しています。	メンバーは家族代表をはじめ、地域包括支援センター職員、大家、民生委員、区役所職員、管理者の7名で開催され、施設運営の現況報告・行事報告・事故報告・今後の取り組み事項などを議題にしています。地域の人の参加を含めた消防訓練が提案されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議や施設見学会の情報をお伝えしています。困難ケースは相談して解決しています。また、包括支援センター主催の会議等で、盛んに情報交換も行っています。	4月に施設長の交代により、新体制がスタートし、地域包括支援センターや宮前区高齢者支援課へ訪問し、事業所の活動を報告しています。特に地域包括支援センターは、「せんにち草体操」をはじめ熱心に事業所をサポートしてくれる存在となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、指導を行っています。ミニカンファレンスを都度行い、拘束しないケアの検討を行っています。また、玄関の施錠も、入居者様のご希望に応じて職員と共に外出しています。	身体拘束ケアにつながらないように、ミニカンファレンスでの研修を実施したり、運営推進会議でも毎回議題に取り上げています。虐待・スピーチロックにつながらないように重点を置いています。帰宅願望や強い訴えなど、本人のストレスにならないように外出や散歩など可能な限り対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修では、虐待になりうるケースの事例を話し合い、理解を深めています。また、虐待を見過ごさない意識教育に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内では研修や学習の機会を設け、必要なお家族へは制度の説明も行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	丁寧かつ、分かりやすい説明に努め、質問の時間を十分に設け、疑問には納得が得られるよう具体的に説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時の面談や、随時の電話連絡により、家族の意見を取り入れるよう努めています。日々の利用者、ご家族との関わりの中で、面会時間のご相談なども随時取り入れ、仕事帰りでも面会できるようにしています。	意見から、利用者と家族とのかかわり合いの場として、事業所内で実施している季節の行事や敬老会に家族を招待し、利用者との一緒の時間を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を通じて意見や提案を出してもらい皆で検討し、よりよいケアができるよう努めています。また、いつでも提案や発言ができる環境作りに心がけています。	職員会議は毎月行っており、職員の勤務形態の変更、希望について、こまめに吸い上げ、事業所での働きやすい環境づくりに努めています。また、家族が遠方にいる利用者には、電話をかけること（コール）を提案し実践しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	契約更新時には個人面談を行い、就業時間や社会保険加入、社員登用の希望を把握し、希望者には随時、資格取得支援制度を勧めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他区のグループホーム連絡会の参加や、外部研修などで同業者との情報交換やネットワークを構築しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談で丁寧に要望を聞き取り良好な関係性を持てるよう努めています。入居者様の生活歴や大切にしていることをケアプランに反映させ、その人に応じた関り方を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が困っている事や不安材料などを丁寧に聞き、ご本人の様子は、面会時に電話でお伝えしています。また、会話を増やすことで話しやすい関係づくりにも心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、ご利用者本位の考え方でアドバイスしています。可能な限りご本人（ご家族）本位に支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の意思を大切に、能力に応じた関わり方ができるよう努めています。レクを通して仲間同士の助け合いや、日常の家事などのお手伝いをしていただいています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ケアプランを共有し、ご家族様と施設で、誕生日や敬老会・外出イベントなど、連携を取り楽しみの支援をしています。情報共有に努め共に協力しながら支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族との電話では、コミュニケーションが取れるよう支援しています。また、ご家族との外出の機会が増えるよう、誕生日の外出計画を相談して馴染みの場所の提案などを行っています。	入居時に家族、ケアマネ、地域包括、民生委員を通じ利用者に関する基本情報を把握しています。馴染みの美容院や墓参り、誕生日祝いの食事会など、家族と一緒に外出しています。親しい友人に近況を知らせることを提案し、手紙を書いている人もいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	曜日別に、体操・コーラス・朗読・手芸・映画・朗読などを楽しんでいます。1F、2Fの交流が生まれ馴染みの関係が育まれるよう、フロア移動も行っています。仲の良い方との散歩も行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	一度ご縁の出来たご家族へは、定期的にイベントのご案内やお便りを郵送しています。高齢になったご家族様からのご相談にも、気軽に応じて支援しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	申し送りや日常の会話から、随時意向や希望の把握を行っています。ご本人の要望にあわせ、昼食にパンを提供したり、おやつに果物を出すなど食事内容を変更しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当ケアマネジャー及び、ご家族やご本人から生活歴を聞き取り職員間で共有し、できるだけ今までの暮らしが継続できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントやモニタリング申し送りなどから、利用者の現状をしっかりと把握し、個別ケアに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議やモニタリング・アセスメントから、本人や家族の意向をくみ取り介護計画書を作成、職員間で共有しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に、時間ごとのご様子や、入居者の言葉や様子を記録し、日々の細かな情報や気づきを記録に残し介護計画への反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常に現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援やご希望にあわせての医療マッサージの調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括支援センターで行われる地域会議を通して、ボランティアの募集をしています。現在、そこから手芸クラブの先生が毎月来ています。また、畑の提供を受け収穫の喜びを味わい豊かな暮らしを楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の定期往診を受けていただいています。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援しています。また、外部受診を希望されている方は、ご家族様の意向を重視して対応しています。	個別に希望する専門医の外部受診（整形など）は継続しており、家族の付き添いで行い、必要な時は事業所が対応しています。医師とは書面で連携を図っています。月2回の歯科往診では、治療や義歯調整を行うと共に、誤嚥性肺炎の回避のため、口腔ケアや口腔体操など有効な情報の指導も受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の申し送りやケアの中で、相談を行い、個人記録に記入し情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリー（看護サマリー）や、往診医からの紹介状も迅速に提供し、情報提供に努めています。ご家族と連携して必要に応じムンテラを行い現状把握に努めています。常に迅速かつ適切な対応をとれるよう支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	指針について入居時に説明しご家族の意向を都度を確認しています。主治医と連携を取り、必要に応じてカンファレンスを行っています。急変時対応マニュアルに沿って支援できるよう職員間で共有しています。	看取りは、事前に本人や関係者の意思や意見を充分にくみ取り、介護フローチャートに基づき支援しています。主治医や看護師との24時間連絡体制を取り、事業所は家族と日々状況を連絡し、声を掛け合い、緩和ケアプランに沿って昨年1名の看取りをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。また、不安がある職員には、個別に対応の仕方を伝えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に川崎市宮前消防署と連携し、日中の避難訓練、夜間想定訓練を実施しています。また、災害時備蓄品も備えています。	年2回消防署と連携し、避難訓練を実施しています。県の災害マニュアルを基に職員の研修を実施しています。地域のハザードマップや緊急時の連絡網を掲載し職員に周知しています。備蓄品は22人分、一週間分を施設管理者が一覧表にて管理しています。	地域合同訓練の実施に向けての提案や消火器の訓練、備蓄品の拡大なども検討しています。今後さらに火災以外の災害等多方面の安全管理への取り組みも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に尊敬と敬意の念を持って接しています。たとえ、排泄時や不穏状態が続いたとしても、言葉掛けやしぐさなどに気を配りプライバシーに配慮して介助を行う工夫をしています。	定期的に「プライバシー保護」「人権擁護」など職員会議にて研修、指導しています。「親しき中にも礼儀あり」「利用者と介護者の関係」「尊敬すべき年長者」など常に意識した対応の周知を図り、どんな場面でも利用者を尊重した声掛け対応を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	他の方々や健康状態に支障がない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、入浴後の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限りご本人の意向を優先しています。会話や様子から意向をくみ取り支援しています。就寝時間や起床時間も、体調等を考慮し、時間だから寝ていただく、起きていただく等の無理な促しは行っていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの入居者が自分で衣服を選んでいます。季節やTPOに合った身だしなみができるように職員からの声掛けも行っています。また、ご家族と相談して、衣類の買い物と一緒に出掛けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者ひとりひとりの生活歴や意向を把握し、できるだけ調理や方付けに参加していただけるよう、さりげない声かけの支援を行っています。食事レクレーションに力を入れており、皆でギョーザを作って食べたりする機会を設け工夫しています。	入居者の得意とする調理補助、盛り付け、配膳・片付け、洗い物、テーブル拭きなど、それぞれ役割を持って行なっています。毎月、利用者の希望を聞き、お稲荷さんパーティ、お好み焼きパーティなど利用者同士が楽しく参加できるレクレーションを行っています。ピザのデリバリーも計画しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士によるバランスの摂れた食事を提供しています。個人の状態に合わせて、ご飯の量や汁物の量を変え、適切な飲水量が確保できるよう声掛け等などの支援を行っています。水分・食事摂取量は記録に残し嗜好に配慮した飲食を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて、介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け誘導を行っています。	日中はできうる限り立位が可能であれば、車イスでも排泄パターンを把握し、トイレに誘導し自立排泄や紙オムツから紙パンツへ向けて取り組んでいます。夜間もポータブルトイレを設置し、ナースコールでの対応や定時に声掛けし、安全な自立排泄に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。必要な飲水量の確保、おやつの工夫（ヨーグルトや寒天使用）にて排便コントロールの支援を行っています。便の形状によって随時看護師に相談、薬の調節が必要な方は医療に繋いでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤を使用し温泉気分を演出しています。体の状態やご本人の意思を考慮し、気分良く入れるよう声掛けを行っています。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導に努めています。入浴ができない時が続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。	入浴は基本週2回、午前と午後に対応しています。希望に応じて、できるだけ夕食前の入浴など時間や曜日、同性介助者に配慮しています。着替えを本人と選んだり、習慣的なゆず湯や菖蒲湯など入浴が楽しめるよう工夫しています。入浴後は清掃、除菌をし、安全で清潔な入浴を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	それぞれの入居者が、自由に自分の時間を居室やフロアにて過ごしています。お一人での移動が不可能な場合は、状態観察から、休息の声掛け誘導を行なっています。夜間安眠して頂けるよう、日中の活動内容も考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が記載した往診記録の確認や、薬剤情報を確認しながら服薬の支援を行なっています。薬剤が変わった時は様子観察を行います。状態の変化があれば随時看護師に報告し医療に繋がります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めています。炊事が得意な方、洗濯干しや洗濯たたみが好きな方、手芸が好きで小物入れを作ってくださいの方がいます。職員からのさりげない感謝の言葉を大切に支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な方は、ご家族対応も含め随時外出しています。車いすの方や歩行困難な方は、天候の良い時に玄関前に出て花を楽しんだり、水やりを行っていたでいます。毎週のせんにち草体操への参加も気分転換や外気浴へ繋がっていて定例の参加者が多くいます。	閑静な住宅街を30分程ゆっくり散歩し、住民から花を貰ったり、会話を交わしています。家族と一緒に馴染みの美容院や外食で出かけています。車椅子の人も乗車できる本社の大型車で、春の花見、夏の花火、秋には羽田空港などの名勝地へと年3回行い、美味しい食事と土産購入を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は主に事務所でっており、使った額を請求させていただき立替制度を取っています。ご希望に応じ、家族管理の下、小額のお金を所持できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	用事がある時や、家に帰りたいという訴えがあった時には、家族了解の下、電話ができるように支援を行なっています。また、手紙のやり取りができるよう支援し、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者各々が、自由に気の合う入居者の居室に出入りして交流しています。また、自室で絵を書いたり、音楽を聴いたり自由に過ごしています。	車椅子利用者が多く、安全な導線の確保、安全な環境作りをしています。白い壁には利用者と共に季節感のある飾りやイラストを作成し装飾しています。24時間空調管理・加湿調整し、清潔で明るい環境作りをしています。レクリエーションの道具は、いつでも誰でも取り出せるよう収納の工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者各々が、自由に気の合う入居者の居室に出入りして交流しています。また、自室で絵を書いたり、音楽を聴いたり自由に過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、自宅に近い感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。	居室はベッド、クローゼット、エアコン、照明が備え付けとなっています。思い出深い品物などを持ち込み、自室で絵を描いたり、音楽やテレビを楽しんだり、他の入居者とのおしゃべりして過ごしています。居室の清掃を職員と一緒にする利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援しています。その人の力量に合わせて、家事や楽しみの継続を行っています。		

事業所名	花物語みやまえナーシング
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を施設各所に張り出し職員が共通理念に基づいて安心して暮らせるようきめ細かな支援に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の団結力の強い地域です。様々な行事に参加しています。また、包括支援センター主催で毎週水曜日『せんにち草体操』が行われ、地域の民生委員さんや住民も多数参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の行事に参加するとともに、施設イベントへの参加も増え認知症の方との自然な触れ合いの場ができています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、地域との関わり方や地域で行っている行事、会議など多岐にわたり、ご意見を頂戴し参考にしています。地域包括支援センターの行事などに声をかけて頂いて参加しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議や施設見学会の情報をお伝えしています。困難ケースは相談して解決しています。また、包括支援センター主催の会議等で、盛んに情報交換も行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、指導を行っています。ミニカンファレンスを都度行い、拘束しないケアの検討を行っています。また、玄関の施錠も、入居者様のご希望に応じて職員と共に外出しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修では、虐待になりうるケースの事例を話し合い、理解を深めています。また、虐待を見過ごさない意識教育に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内では研修や学習の機会を設け、必要なお家族へは制度の説明も行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	丁寧かつ、分かりやすい説明に努め、質問の時間を十分に設け、疑問には納得が得られるよう具体的に説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時の面談や、随時の電話連絡により、家族の意見を取り入れるよう努めています。日々の利用者、ご家族との関わりの中で、面会時間のご相談なども随時取り入れ、仕事帰りでも面会できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を通じて意見や提案を出してもらい皆で検討し、よりよいケアができるよう努めています。また、いつでも提案や発言ができる環境作りに心がけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	契約更新時には個人面談を行い、就業時間や社会保険加入、社員登用の希望を把握し、希望者には随時、資格取得支援制度を勧めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他区のグループホーム連絡会の参加や、外部研修などで同業者との情報交換やネットワークを構築しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談で丁寧に要望を聞き取り良好な関係性を持てるよう努めています。入居者様の生活歴や大切にしていることをケアプランに反映させ、その人に応じた関わり方をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が困っている事や不安材料などを丁寧に聞き、ご本人の様子は、面会時に電話でお伝えしています。また、会話を増やすことで話しやすい関係づくりにも心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、ご利用者本位の考え方でアドバイスしています。可能な限りご本人（ご家族）本位に支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の意思を大切に、能力に応じた関り方ができるよう努めています。レクを通して仲間同士の助け合いや、日常の家事などのお手伝いをいただいています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ケアプランを共有し、ご家族様と施設で、誕生日や敬老会・外出イベントなど、連携を取り楽しみの支援をしています。情報共有に努め共に協力しながら支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族との電話では、コミュニケーションが取れるよう支援しています。また、ご家族との外出の機会が増えるよう、誕生日の外出計画を相談して馴染みの場所の提案などを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	曜日別に、体操・コーラス・朗読・手芸・映画・朗読などを楽しんでいます。1F、2Fの交流が生まれ馴染みの関係が育まれるよう、フロア移動も行っています。仲の良い方との散歩も行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	一度ご縁の出来たご家族へは、定期的にイベントのご案内やお便りを郵送しています。高齢になったご家族様からのご相談にも、気軽に応じて支援しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	申し送りや日常の会話から、随時意向や希望の把握を行っています。ご本人の要望にあわせ、昼食にパンを提供したり、おやつに果物を出すなど食事内容を変更しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当ケアマネジャー及び、ご家族やご本人から生活歴を聞き取り職員間で共有し、できるだけ今までの暮らしが継続できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントやモニタリング申し送りなどから、利用者の現状をしっかりと把握し、個別ケアに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議やモニタリング・アセスメントから、本人や家族の意向をくみ取り介護計画書を作成、職員間で共有しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に、時間ごとのご様子や、入居者の言葉や様子を記録し、日々の細かな情報や気づきを記録に残し介護計画への反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常に現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援やご希望にあわせての医療マッサージの調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括支援センターで行われる地域会議を通して、ボランティアの募集をしています。現在、そこから手芸クラブの先生が毎月来ています。また、畑の提供を受け収穫の喜びを味わい豊かな暮らしを楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の定期往診を受けていただいています。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援しています。また、外部受診を希望されている方は、ご家族様の意向を重視して対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の申し送りやケアの中で、相談を行い、個人記録に記入し情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリー（看護サマリー）や、往診医からの紹介状も迅速に提供し、情報提供に努めています。ご家族と連携して必要に応じムンテラを行い現状把握に努めています。常に迅速かつ適切な対応をとれるよう支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	指針について入居時に説明しご家族の意向を都度確認しています。主治医と連携を取り、必要に応じてカンファレンスを行っています。急変時対応マニュアルに沿って支援できるよう職員間で共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。また、不安がある職員には、個別に対応の仕方を伝えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に川崎市宮前消防署と連携し、日中の避難訓練、夜間想定訓練を実施しています。また、災害時備蓄品も備えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に尊敬と敬意の念を持って接しています。たとえ、排泄時や不穏状態が続いたとしても、言葉掛けやしぐさなどに気を配りプライバシーに配慮して介助を行う工夫をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	他の方々や健康状態に支障がない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、入浴後の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限りご本人の意向を優先しています。会話や様子から意向をくみ取り支援しています。就寝時間や起床時間も、体調等を考慮し、時間だから寝ていただく、起きていただく等の無理な促しは行っていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの入居者が自分で衣服を選んでいきます。季節やTPOに合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行っています。また、ご家族と相談して、衣類の買い物と一緒に出掛けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者ひとりひとりの生活歴や意向を把握し、できるだけ調理や方付けに参加していただけるよう、さりげない声かけの支援を行っています。食事レクレーションに力を入れており、皆でギョーザを作って食べたりする機会を設け工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士によるバランスの摂れた食事を提供しています。個人の状態に合わせて、ご飯の量や汁物の量を変え、適切な飲水量が確保できるよう声掛け等などの支援を行っています。水分・食事摂取量は記録に残し嗜好に配慮した飲食を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて、介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っています。	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。必要な飲水量の確保、おやつ工夫（ヨーグルトや寒天使用）にて排便コントロールの支援を行っています。便の形状によって随時看護師に相談、薬の調節が必要な方は医療に繋いでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤を使用し温泉気分を演出しています。体の状態やご本人の意思を考慮し、気分良く入れるよう声掛けを行っています。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導に努めています。入浴ができない時が続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	それぞれの入居者が、自由に自分の時間を居室やフロアにて過ごしています。お一人での移動が不可能な場合は、状態観察から、休息の声掛け誘導を行なっています。夜間安眠して頂けるよう、日中の活動内容も考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が記載した往診記録の確認や、薬剤情報を確認しながら服薬の支援を行なっています。薬剤が変わった時は様子観察を行います。状態の変化があれば随時看護師に報告し医療に繋がります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めています。炊事が得意な方、洗濯干しや洗濯たたみが好きな方、手芸が好きで小物入れを作ってくださいの方がいます。職員からのさりげない感謝の言葉を大切に支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な方は、ご家族対応も含め随時外出しています。車いすの方や歩行困難な方は、天候の良い時に玄関前に出て花を楽しんだり、水やりを行っていたでています。毎週のせんにち草体操への参加も気分転換や外気浴へ繋がっていて定例の参加者が多くいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は主に事務所でっており、使った額を請求させていただき立替制度を取っています。ご希望に応じ、家族管理の下、小額のお金を所持できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	用事がある時や、家に帰りたいという訴えがあった時には、家族了解の下、電話ができるように支援を行なっています。また、手紙のやり取りができるよう支援し、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者各々が、自由に気の合う入居者の居室に出入りして交流しています。また、自室で絵を書いたり、音楽を聴いたり自由に過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者各々が、自由に気の合う入居者の居室に出入りして交流しています。また、自室で絵を書いたり、音楽を聴いたり自由に過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、自宅に近い感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援しています。その人の力量に合わせて、家事や楽しみの継続を行っています。		

令和元年度

目標達成計画

事業所名 花物語みやまえナーシング

作成日: 令和 2年 8月 5日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標に達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		施設の特徴として、利用者様の介護度は重い方々が多いのが現状です。加え精神的疾患のある利用者様も増えているのも現状です。介護者として支援するうえで、対するスキルアップも重要な課題です。	毎月の職員会議でのテーマとして取り上げ職員の意識を高めたい。	各事例を盛り込み、多様な知識を得て、実践に備えたい。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月